



(財) 第五福竜丸平和協会
 〒136 東京都江東区夢の島3-2
 都立・第五福竜丸展示館内
 電話 (521) 8494

久保山愛吉さんの願いに報いるために

浦 敬

一九五四年、私の大学在学最後の年、第五福竜丸がビキニ環礁で米国の水爆実験による放射性降下物「死の灰」を運び、乗組員の皆さんが、広島や長崎で被爆された人々と同じように急性放射能症と診断され入院されたというところ。第五福竜丸がもち帰ったマグロが放射能に汚染していることで焼津港を中心に大変なさわぎとなっただけでなく、八百隻を越すマグロ船が被災しており、それらの船が折角操業して取って来たマグロが放射能汚染しているというところで、厚生省の廃棄処分の指示が出て、土中深く埋めたり、近海に廃棄しては悪影響があつてはいけなさと遠洋に廃棄したところ。

郷里、南紀勝浦でも被災して来たマグロ船の船員さんたちがひそかに大阪の病院で診察を受けて来たという噂がとびかたり、マグロだけでなく、魚そのものが気持ち悪いと敬遠され、友達の魚屋の入口には「当店の魚は放射能汚染しておりません、安心してお求め

下さい」と張り紙がしてあったこと。そして九月二十三日、久保山愛吉さんが帰らぬ人となられたこと。

以上のような様々な出来事は、当時の私にとっても大きなショックであり、それまでも色々と学生運動にもかかわってはいったのだが、これらの出来事以来尚一層原水爆禁止の運動には真剣に参加するようになり、その後教師となつて平和教育取り組みの基礎となった。

一九五五年、教師となり、平和教育を推進していくには、「歴史の事実」を科学的に学ぶことの必要性を痛感し、広島や長崎の被爆の実態についても自分の目で確かめるため訪れ、直接資料館を見学し体験された人々の話を聞き、それを子供たちの心に少しでも刻みつけることが出来ればと努力して来た。

一九七六年、第五福竜丸展示館が開館されたことを知り大変うれしく思い是非見学に行きたいと思つたがなかなかその機会がなかった。

一九八〇年、夏、東京に研究会で出かけたこの機を逃しては……と見学に訪



れた。そして改めて深く感銘を受けると共に、第五福竜丸が、自分の住んでいる新宮の目と鼻の先古座町で造船されたことを新たに発見、驚き感動すると共に、今後尚一層地域での取り組みへの意欲を感じつつ帰った。

一九八四年、自分が管理職の立場となり、年度始め、教育計画の中に「平和教育」を一つの柱として位置づけ、職員に理解を求め取り組んで来た。

その平和教育の学習の中で、広島・長崎の被災、ビキニ環礁での第五福竜丸の被災についても学習してもらつておにしている。

そして、三年生の関東方面修学旅行には、「第五福竜丸展示館見学」を必ず計画に入れ、生徒一人ひとりが自分の目で歴史を受けとめ心に刻んでもらいたいと考え実施している。

このささやかな取り組みが、久保山愛吉さんの「原水爆の被害者は、わたしを最後にしてほしい」という願いに少しでも報いることが出来ればと念願している。

(和歌山県新宮市立光洋中学校長)

協会設立と展示館開設を祝う 六月十一日・松本楼

六月十一日、日比谷公園の松本楼で、協会設立記念祝賀会が開かれ、各界から約五十人が出席しました。斎藤、服部理事の司会により、猿橋理事の開会挨拶、三宅会長の主催者挨拶のあと、松井監事の音頭で乾杯、出席者がつぎつぎと祝辞をのべ歓談しました。

メッセージ

このたび(財)第五福竜丸平和協会の設立十七周年並びに第五福竜丸展示館十四周年を機に長崎市民を代表してメッセージをお送りできますことを大変光栄に思います。

私たち被爆都市長崎の市民は二度と原爆被爆の悲劇を繰り返さないためにも核兵器廃絶と世界恒久平和を訴えてまいりました。しかしながら、戦後は私たちの訴えも空しく新たな核兵器の開発競争が続き、一九五四年にアメリカがビキニ環礁で行なった水爆実験によって再び核兵器による犠牲者が出ましたことは誠に遺憾なこと

長崎市長 本島 等

あります。この第五福竜丸の事件は、広島・長崎を除けばほとんど知られていなかった核兵器と放射能の恐ろしさが全国に広がり、原水爆禁止を求める草の根運動の出发点となりました。最近、米ソ間では核兵器が削減されつつありますが、核戦争により人類絶滅の危機が無くなったわけではありません。毎年頻りに実施されている核実験が周辺地域へ及ぼす環境汚染の問題も深刻となってきました。今でも核兵器の廃絶は、人類が直面する最も緊急かつ重要な課題であります。

鈴木俊一東京都知事からの祝電、本島等長崎市長からのメッセージ(別項)が紹介され、感銘を与えました。

常松三郎南部公園緑地事務所長が、協会と展示館の発展を祝し、都民に親しまれる展示館への大きな期待を述べられました。

第五福竜丸展示館を設計した杉重彦設計建築事務所長も出席し、来館者の増加に対応して、新しく雄大な構想にたつた展示館増築の

青写真をたて実現をはかろうと関係者の奮起と世論の高揚をよびかけました。

保存運動の永い歴史にふさわしく、科学者、医師、ジャーナリスト、教師、写真家、俳句人、編集者、議員、草の根の平和・原水爆禁止の運動家、主婦など一堂に会し、会はずながら福竜丸の同窓会のおもむき、元第五福竜丸乗組員大石又七さんも参加し出席者の心からの歓迎を受けました。

協会理事会開く

今日、世界の情勢は大きく変わりつつあります。東欧の変化、ベルリンの壁の崩壊などは、戦後の東西冷戦体制に終止符を打ち、対立から対話、軍拡から軍縮への大きな変革をもたらしつつあります。

私たちは、国境を越えた人びとの交流と相互理解を深めると共に、核兵器廃絶のために連帯していかなければならぬと思います。

「原水爆の被害者は私を最後にしてほしい」という久保山さんの遺言を心に銘じ、平和への誓いを新たにするとともに、(財)第五福竜丸平和協会の皆様のご健勝と今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

五月二十九日、学士会館で協会の第94回理事会が開かれ、①会務報告②八九年度決算と事業報告③当面の活動計画について審議し、決算と事業報告を決定しました。

昨年度の来館者がおよそ二五万人、七百団体にのぼったこと、小学生の社会科見学をはじめ、全国から中学生、高校生の修学旅行による見学があつたことが改めて強調され、今後とも展示内容の充実を含め一層の努力をほらうことを一致確認しました。賛助会員の勧誘、寄付金の増大、展示館の修理、拡充についても力を尽くすことにしました。

日本青年団協議会の代表が、運動の伝統をひきつぎ、原水爆のない未来をめざす青年の活動について決意をのべ出席者一同が共感の拍手。本多副会長の閉会の辞で意義深い会をしめくくりました。

評議員会開く

祝賀会終了後、松本楼で協会の九〇年度第一回評議員会が開かれました。八九年度の決算と事業報告、九〇年度の予算と事業計画を承認すると共に、協会の活動強化への多くの提言がなされました。



「核実験場を閉鎖せよ」ソ連のセミパラチンスク実験場の風下地域、カラウル山で開かれた集会に参加した地元のカザフの人たち (1990・5・27)

明らかにされはじめたソ連の 原水爆実験の被害

豊崎 博光

「ノー、ノー、ポリゴン (核実験場はもういらぬ)」
五月二十七日。ソ連、カザフ共和国北東部の大草原のなかにぼつんとある岩だらけのカラウル山に集まっていた約一万人のカザフ人などが拳を振りあげ、叫びながら行進を始めた。それは、四十年間もの間核実験の被害に苦しみ、沈黙を強いられてきた人びとが初めてあげた訴えだった。

行進は、五月二十四日から二十日、五月二十六日まで、同共和国の首都アルマ・アタ市で開かれていた「核実験禁止国際市民会議」の最後の行動だった。会議は、地元の反核組織「ネバダ・セミパラチンスク運動」(八九年二月末に誕生したソ連初の市民による反核運動体。議長は詩人のオルジャス・スレイメノフ氏)と、I P P N W (核戦争防止国際医師の会)との共催によるもので、日本を含む二十カ国、約七百人が参加して開かれた。
カラウル(人口六千人)は、ソ連の主要核実験場のひとつ東カザフ実験場(セミパラチンスク実験場)の南約百五十キロにある。同実験場では、一九四九年八月二十九日にソ連初の原水爆実験が行われて以来、八九年末までに三百二十四回の核実験が地上と地下で行われた(米、「天然資源防衛協会」資料)。
この間、カラウルをはじめ実験場周辺の村では、多くの人びとががんなどで亡くなり、いまま被害

が出ていたという。
カラウルでは、一九五三年の水爆実験が行われた時、四十人の男が置き去りにされた。その内生存しているのは五人で、残りはすべてがんなどで亡くなったという。
実験場の東約三十キロのズナメンカ村(人口二千人)に住むZ・ツヤクバエフさん(六七)は、「私は、一九四九年の最初の核実験を見てから、何度も核爆発を見ました。以来、頭痛と骨の痛みがひどく、六年前には右膝下に火傷のようなものができました。村では、多くの者がリンパ腺がんや胃がんなどで亡くなっています」と語った。
しかし、被害の実態についての情報は少なく、断片的なものしか出ていない。
被害者の数について、アルマ・アタ市の新聞「イズビラーチェリ」紙のH・トゥルスノフ編集長(二八)は、「実験場周辺の四地区、約二、三百万人が被害を受けていると思われまます」といった。
八九年七月、セミパラチンスク市で開かれた科学会議の際の報告書「住民の健康と生環境」は、①十八歳から五十九歳の実験場周辺住民の白血球減少は顕著で、基

礎以下の人々が八十六名もいる。
②子供の死亡率は高い。一九六〇年から八八年までに生まれた子供の死亡率は、千人当り六・一%から十二・五%に増加している(ソ連全体の幼児死亡率が不明のため比較ができない)。
③新生児一人当りの先天性障害の発生率は、八〇年には十一・八%だったが、八五年には一九・二%に増加した(これも比較するソ連全体の数字がないため、どの位高いのかが不明)、などとしている。
セミパラチンスク医科大学のM・ジャンゲロワ教授は、「周辺住民のがんの発生率は、ソ連平均より一・三から一・七倍高い。しかし、軍は住民の調査データの公開を拒み続けているために詳しいことは分かりません」と語った。
「ネバダ・セミパラチンスク運動」の活動によって、被害の実態は少しずつ明らかになって行くと思われる。被害者の救済、核実験場の閉鎖そして包括的核実験禁止を求める同組織は、世界各国の反核運動グループとの連帯と支援を求めている。今夏の原水禁大会には十人程が参加する予定で、とくに日本からの支援を強く求めている。(フォトジャーナリスト)

平和随想 (42)

三宅 泰雄



第五福竜丸展示館は都立の施設ですが、財団法人・第五福竜丸平和協会が都からの委託を受けて、運営されていることは、皆様ご存知のことと思います。会の収入は、年間二千数百万円ですが、そのうち七割がたは東京都からの委託金です。
一九六九年に当時の美濃部都知事を中心として「第五福竜丸保存委員会」ができ、夢の島に捨てられていた第五福竜丸の永久保存の方策について、いく度か協議を重ねました。その結果として、都立の公園にすることにきまっていた夢の島に展示館を設けることを決めました。しかし実際には、そのころの公園予定地とは名ばかりで、一面泥と、ごみと、汚物の集積場

であったのが、当時の夢の島の実態でした。その間、台風の襲来などで、船自体が危険な状態におちいりました。この時は江東区有志の方たちのおかげで、かろうじて崩壊をまぬかれ、船自体も安全な場所に移すことができました。それも、街頭で多くの方々から頂いた寄付によるものでした。
新しい展示館の設計案については、公募となり、応募された多くの案の中から選ばれたのが、現在の三角屋根の展示館の設計案でした。この設計案をもとにして、工事が進められました。その結果はやくも一九七六年には工事が完了し、その年の六月十日に開館式のはこびとなりました。
しかし、当時は公園といっても、泥だらけの上、悪臭も紛々とし、これで見物客が来るだろうか心配していました。幸いに、多くの新聞で展示館の開館をつたえてくれたおかげで、最初の一年間だけで、約二万人もの参観者がありました。

開館の当時は故広田重道氏が館長格として努力しました。氏は以前から、展示館の必要性を強調し、東京都に対しても、積極的に働きかけていました。
しかし、いうまでもないことですが、美濃部都知事の決断がなかったら、展示館の実現には至らなかったでしょう。夢の島公園も、最初のころは名前だけのものですが、創立以来二十年近くたった現在では整地も行なわれ、多くの施設も完成して見違えるような、立派な公園になりました。そのおかげで、いまでは第五福竜丸展示館にも、一日で七、八百人の来館者が訪れるようになり、昔とは、すっかり変わりました。

最近では中・小学校や高校からの集団的参観者が激増し、社会教育にも役立つてきています。青少年にとっては、第五福竜丸などの水爆被災の話は遠い昔の話です。しかし教師たちの適切な指導により、大きい教育的な効果を生んでいきます。
第五福竜丸平和協会の年中行事の一つは、文京区民センターを会場として、毎年三月一日前後に、講演会(ビキニ事件記念集会)を開催し、ビキニ事件に関連のある方々を講師(二人)にお招きし、ビキニ事件の真相等について話をしていただいています。
つぎは毎年六月十日前後に、日比谷公園の松本楼で、第五福竜丸平和協会と展示館の設立記念集会を開いています。松本楼を会場にしているのは、かつて展示館設立の相談会がここを会場としていたからです。この会では、会員同志の親睦を主としています。
このほかに、展示館の存在を多くの人に知ってもらうため、展示館建設案ができた頃から、正月の中頃に凧上げ大会を開催してきました。現在では、当時の状況と、すっかり変わりましたので、今後これをどうするか目下考慮中です。そのほか俳人たちによる「久保山忌句会」や、「原爆忌東京俳句大会」などが開かれ、これらの集いを協賛しています。
最後に悲しむべき情報をお伝えしなければなりません。協会の顧問となって頂いていた古在由重先生と福島要一先生の両先生が、前後してお亡くなりになったことです。両先生とも、それぞれ、独自の見解から、本会を助けて頂いたことに對し、心から感謝の意を表したいと思えます。